

建設にもげ事業がすすむ 高速道路

中国横断自動車道尾道松江線



三刀屋町地内の用地契約調印の様子

現在、中国横断自動車道尾道松江線の三刀屋木次インターチェンジから吉田掛合インターチェンジ（仮称）間の用地買収と補償の契約が進んでいます。

この区間は、昨年用地測量を行った木次町・三刀屋町・吉田町の一部、延長12.3kmで、今年に入ってから関係地権者の方に説明会を開催しながら協力をお願いしてきました。

8月上旬から三刀屋町、木次町で集団調印をさせていた大きな契約を進め、現在面積にして約80%余りまで進んでいます。

今後は市外・県外在住の方々にも、ご理解を得て契約を進めていき完了次第、一部本線の工事が発注される予定になっています。

吉田掛合インターチェンジ（仮称）から県境間も、現在用地測量が行われており、1年遅れで事業が進んでいます。この高速道路は、雲南市の

用地契約調印



三刀屋町地内の用地契約調印の様子

みならず島根県も最重要施策で取り組んでおり、今後とも関係者のご理解とご協力で、一日でも早い開通を目指しています。



木次町地内の用地契約調印の様子

今年は何年になく少雨が続き、当初洪水対策も協議されていきました。しかし、6月30日から雨が降りはじめ、7月1日には雲南市全域で、24時間雨量が150mmを越し、さらに時間雨量も各地で20mmを越す豪雨となりました。

そのため、雲南市全域で災害が発生しました。

市内全域で300箇所以上の被災箇所があるとの報告があったおり、今後調査・測量を行った後、その詳細が明らかになる予定です。



また、災害が発生すると、最初にその現場を確認する作業として「査定」が行なわれ、その後、工事に着手することになります。



今回、7月の豪雨による災害発生現場のうち、市が管理する林道の災害が発生した箇所について、農林水産省の技術官と財務省の調査官による査定があり、災害復旧事業の基本となる工法ならびに工事費が定められました。

今後、査定内容をもとに、復旧工事の設計を行い、早期着工により復旧を図ります。

早期復旧をめざして

豪雨による災害現場の査定が行われました



開設に向け準備すすむ

雲南市身体教育医学研究所準備委員会

だれもが生涯現役で過ごせるまちづくりをめざし、来年4月から設置予定となる「（仮称）雲南市身体教育医学研究所」の準備委員会が8月29日、吉田ふるさとセンターで開催されました。

この日は、研究所の設置場所・活動内容や組織の体制、研究員の配置の協議や意見交換などがありました。



また翌30日には、地域別に身体活動やストレッチ体操等

に取り組んでいる指導者や転倒・介護予防に関わる職員らおよそ50人が、三刀屋健康福祉センターに集まり、研修を行いました。

参加者は、転倒予防に関する基礎的講義を受けた後、転倒予防の指導方法について、実技をまじえながら熱心に学びました。



雲南市民生児童委員協議会、雲南市身障者協会が発足

雲南市民生児童委員協議会（会員数140人）が7月1日発足しました。

発足時の代議員総会には、旧6町村の民生児童委員協議会から選出された18名の代議員をはじめ雲南市社会福祉協議会関係者らが出席。会長には三刀屋町民生児童委員協議会の横原富徳会長が選出されました。

その後、協議会のメンバーらは、市役所職員から個人情報取扱いについて、また横原会長から児童委員家庭訪問促進事業についてそれぞれ説明を受けました。

民生児童委員協議会では、民生・児童委員が地域住民に信頼される相談・支援活動が展開できるように努めていきますので、今後ともみなさんのご理解とご協力をお願いします。

6町の身障者協会から選出された12名の代議員をはじめ行政関係者や雲南市社会福祉協議会の関係者が出席し、雲南市身障者協会（会員数1,916人）の代議員総会が6月22日に開かれました。

総会では、雲南市身障者協会の高橋儀政会長のあいさつや平成17年度の事業計画・収支予算の協議がありました。

また、引き続き研修会が開催され、市の障害者福祉サービスの手続きや雲南広域福祉会の実施する障害者の生活支援事業などについて説明がありました。

今後とも会議・研修会を通じて、会員相互の親睦と各支部の積極的な活動展開を図ります。

なお現在、会員の減少化に対応するため、新規会員の加入についても強く推進していくことにしています。

新規加入等に対する問い合わせは、事務局の雲南市社会福祉協議会 ☎0854-142-9888 までお願いします。